

# 防犯 最前線

第22話

米野木区自主防犯委員会



下校児童を見守るメンバー＝米野木町小週間で



青パトで巡回

## マニュアルなしが奏功

吹く風に冷たさを感じる2月の午後、東小学校から南に進んだ横断歩道で、米野木区自主防犯委員会のメンバーが下校児童を出迎えた。「お帰り、気を付けてね」。雪こそないが、青空と一面に広がる冬田は、児童たちにとって最高の古里の風景だ。

児童たちが横断歩道を渡り終えると、メンバーはすぐさま車で東名高速道路の側道へ移動して、見守りを続けた。幹線道路から入った道は昼でも車がよく走り、「できれば毎日立ってあげたい」と委員長の武田初明さん(63)と同町仲田氏は話す。

同会は2012年6月、区の役員らの呼び掛けで設立した。警察OBの住民や地元老人クラブ「青老会」の協力で約25人が所属する。活動は青色パトロールと児童の見守りの二本立て。青パトは市の車を使って週2回行い、約3時間かけて30キロ近い距離を回る。巡回中に同小の通学路に立ち寄り、児童を見守っている。

地区ではここ数年米野木駅前の開発が進み、米野木台の街も誕生した。普段の活動は2人

1組。広い地域をカバーするには少ないように感じるが、メンバーの個性と勘を頼りに「あえてマニュアルを作らない」。天白川の景色の陰で捨てられるゴミの不法投棄、農道や愛知用水付近の抜け道、神社の賽銭泥棒など、どこを監視するかは自由。米野木台に住む石野憲男さん(67)は「子どもが多いので歩道のカラー舗装はありがたい。標識や表示が増えれば」と願う。同町丸山の武田清さん(71)、同町北山の武田保さん(70)は「大雨で天白川が氾濫してもいかん。それぞれ気になる所も違い目線が役立つ」と強調する。

同会は昨年、豊田信用金庫と愛知署と共催して振り込め詐欺の被害防止講座を開いた。地区の高齢者が実際にATMを使って具体的な手口と対策を学び、大きな意識付けになった。新年度、地区の家庭に防犯用のラミネート板を配布する計画もある。「防犯も防災も全住民が同じ気持ちでやらないと。隣近所で情報を伝え合い、四方八方に目を光らせたい」。頼もしいメンバーが地域を引っ張る。(広)



### 立体的なパトロール定着 五色園区

今年度の住宅侵入盗、車両盗難「ゼロ」を目標に掲げる五色園区が達成を迎えようとしている。県の地域自主防犯活動活発化促進事業の委託を受け、防犯体制を強化。見守り隊を新編成し、犬連れの散歩やウォーキング時のパトロールのほか、「ゼロの日」の安全運転呼びかけに住民総ぐるみで力を入れている。オレンジ色のベストを新調し、あいさつ・声かけ運動も展開。高橋佑輔区長は「皆さんの防犯意識が格段に向上しています。継続して素晴らしい五色園区にしたい」。

